

丹波市
地域おこし
協力隊

地域おこし協力隊の活動を報告します

自然エネルギーの地域循環をめざす

阪口明美さん vol.45

経歴：大阪府出身。大阪で会社員をしながら林業を学んだ後、山に関わる仕事を求めて丹波市に移住。
任期：平成31年1月～



こんにちは。阪口です。地域おこし協力隊の任期も残り3カ月となりました。森林整備で切り出された原木を買い取り、自然エネルギーとして地域内に循環させる「丹波市木の駅プロジェクト」の運営支援や、登山道を山好き女子4人で開拓・整備する「プロジェクト0.551キロ」など、これまで様々な活動にかかわってきました。

そして、現在進めているのが、生ごみを土の中のバクテリアで分解させるコンポストの一種、「キエー口」普及の取り組みです。黒土、または畑の土を入れたキエー口の中に生ごみを埋めるだけで、夏場であれば5日ほどで生ごみが消えます。また、正しく使えば臭いも虫

も発生しません。シンプルな構造ながら、かなりの優れものです。キエー口を市内の山から切り出した間伐材で製作すれば、間伐材の有効活用にもなります。私はキエー口の普及活動が、ごみ削減だけではなく森林保全や地元への愛着にも繋がるような、丹波市ならではの取り組みにしたいと考えています。

任期終了後も、このような間伐材の有効活用や森林保全活動を継続していきます。これからもどうぞよろしく願います。



市の間伐材から作ったキエー口に生ごみを入れる阪口隊員

市長・林時彦の
時を駆ける



初心にかえって頑張り
ます

私は長年、自身のフェイスブックで、趣味の黒井城跡登頂の様子や市政、国政についての所感を投稿しています。

フェイスブックには1年前の投稿を確認できる機能があります。このコラムを執筆している今日からちょうど1年前の私の投稿には、市長選に向けた出馬の意欲を当時の新聞記事を引用し、次の4点について語っていました。

- 1つ目は、市長と職員の間にある垣根を取り払い、職員が頑張れる職場を作る
- 2つ目は、政策決定過程を明らかにし、市政の透明性を図る
- 3つ目は、自分の子どもたちに胸を張って「帰ってこいよ」と言えるまちにします。そのために、まずはごみのポイ捨てのない地域づくりを目指し、県下一高いごみ袋の価格を半額にする
- 4つ目は、丹波医療センターへの直行デマンドバスの運行を目指す

現在、「職員が頑張れる職場を作る」と「市政の透明性を図る」について、積極的に取り組みを続け、成果が出てきているものと感じています。

「県下一高いごみ袋の価格を半額にする」については、環境審議会に答申し、来年4月からの実現に向け動き出しています。

「丹波医療センターへの直行デマンドバスの運行」については、そのニーズを把握する社会実験の実施に向けて、関係機関と協議中です。

このほかに、今年1年間は、ワクチン接種を始めとするコロナウイルス対策に市を挙げて取り組んで参りました。

その他の施策についても引き続き職員一同力を合わせて参りますので、よろしく願います。



丹波市長 林時彦